

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム キャスル清田 (ユニット2)	評価実施年月日	平成20年6月26日
評価実施構成員氏名	代表取締役 山本洋子 統括施設長 山本勝治 管理者 幕田陽子 主任 梅基朝子 主任 酒井 崇		
記録者氏名	幕田陽子	記録年月日	平成20年5月25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者がその人らしく生活していくために、精神面、身体面、そのほか様々な方面から適切な支援を行う。一人一人求める対応が異なる事を念頭に置き、何がその方にとってよりよい生活に結びつくのかを常に職員は考えていく。	○	利用者対応に及第点は無いので、職員は日々研鑽、努力を怠らなくしていく。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に関して常に意味を考え、毎日のミーティングでディスカッションを行い、よりよい支援の方法を模索。援助計画に反映している。	○	職員一人一人が学習し、知識を共有しながら理念の実践を図っていく。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	御家族へは面会時、また定期的にGH便りを発行している。援助計画更新時、時間を頂き内容について説明。具体的にこのような理念で動いている、という説明はしておらず、理念については浸透しているとはいえない。	○	理念について具体的に提示し、それに基づいて職務に当たっている、という姿勢を御理解いただけるよう、明文化したものを掲示し、周知を図りたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の日課となる散歩などで近隣の方へ御挨拶から始めている。利用者が定期的に利用している美容院、理容院、コンビニなど、顔見知りになっているところがある。	○	商店だけではなく、一般の方々に知っていただく努力をしていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域活動には不参加。利用者のほとんどが札幌出身者ではないため、新しい住環境に馴染んでいただく事を優先している。	○	小学校の運動会見学など、利用者が取り組みやすい事から始め、地域活動参加を広げていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者の安定した生活に重点を置いている。	○	認知症など高齢者特有の疾病の勉強会など、職員の経験を活かした活動で地域に貢献したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は、自分たちに不足しているものを再認識する為のものであることを常に念頭に置き、日常業務の中で振り返りを行っている。</p>	○	業務に関わる職員が、抱いた疑問をその日のうちに解決できるような体制、知識、向上心を抱き続ける指針として活かしていく。
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>家族と地域の方の意見を参考にし、利用者への対応を工夫している。地域の方には物足りないところも、家族は満足していたり現状維持を望んでいたりでするので、どちらも納得できる体制作りが難しい。</p>	○	委員会の数を重ねていく事により、要望の具体化に繋がると考える。様々な意見をいただけると思うが、最終的には利用者の穏やかな生活の実現を目指していきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営上の疑問点などは担当者に相談し、意見を頂いている。</p>	○	深度でいくとまだ浅いので、こちらからの働きかけを具体的なものにし、意見や協力をいただくことでサービスの充実を図りたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、必要としている利用者はいない為、知識も通り一遍のものになっている。</p>	○	学習する機会の確保は難しいが、資料を揃えておき有事に備えることはしておきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待の防止徹底は出来ている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>事前に時間を設け、出来るだけ疑問の解消に当たっている。契約、解約後も必要に応じ説明する時間を設けている。</p>	○	ケースにより抱く不安は異なるので、個々にあった相談が出来るよう、日々研鑽していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に関する機関など掲示し、利用しやすいよう図っている。寄せられた意見は出来るだけ即座に反映できるよう取り計らっている。不満を言い表せない利用者については、職員が日々の支援の中で察知するよう努力し、安心できる対応を行う。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時を利用し、細かな報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情に関する機関など掲示し、利用しやすいよう図っている。寄せられた意見は出来るだけ即座に反映できるよう取り計らっている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な会議などで職員からの意見を募っている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者へよりよいサービスが提供できるよう職員確保に努力している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動する職員に代わり残る職員がその方と深い関わりをもつなど、環境の変化をゆるやかにする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修を受ける機会をと思うが、一職場一人だけとかではなく、全員に受けさせる事には時間がかかる為、メディアの情報について検討や結果に基づき、必要な見直しの話し合いの場を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>交流する場があるときは出来るだけ職員に出席するように勧めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>2ヶ月に一回食事会を設けて親睦回を図っています。 職員の誕生日にはケーキで祝っています。 1ヶ月に1度は連休が取れるよう取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>月1回各事業所の管理者を集めて相互間の話し合いをし、他事業所との意見交流をしています。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>時間を作り、職員と顔馴染みになっていただく事からはじめている。職員と馴染みになる事で不安を訴えやすくなり、ニーズをつかみやすくなる。家族にもあらかじめその事を説明し理解と協力を得ている。</p>	○ 事前訪問をきちんと行い、利用者と顔なじみになる職員が室内のしつらえなど住環境の変化を最小限にする努力をしていく。バックグラウンドを詳細に把握する事で、利用者の言葉にならない不安を解消していくよう図る。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>時間を作り、相談や聞き取りを行っている。入居当日か前日に援助計画を作成し、対応の細かな説明をする事で家族からの疑問や不安な点を明確にしている。</p>	○ 事前訪問をきちんと行い、室内のしつらえなど住環境の変化を最小限にする努力をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容、本人のニーズを考慮し、必要な機関を紹介している。	○	他機関、他施設と連携をとることで、より正確な情報をもつ事が出来、相談者へのアドバイスも的確になるので、努力していく。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員と顔馴染みになるところから始め、ホームの雰囲気には徐々に慣れていただくよう配慮している。家族には場合によっては日々の記録の閲覧をもらい、正確な状況を見ていただいている。	○	他利用者との関わりが一番時間がかかり、難しい。職員は仲立ちを上手にしていく努力を続けていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が「してもらっている」と感じずにすむよう、職員の動きを慎重にしている。	○	利用者が自発的に行う事を受容し、家庭での暮らしと遜色ない生活の実現を支援していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に応報誌を出すとともに日々の状況を報告、面会時に相談を申し受けている。	○	ご家族の、言葉にならない悩みを察し、職員からの配慮をしていながら本人の生活を支えていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時間は特に定めておらず、常識の範囲内としている。居心地良く過ごせるよう配慮している。	○	参加できる行事の開催など、よりよい関係作りに努めたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出先の希望など出来るだけ実現している。	○	遠方からの入居者が多い為、完全な実現は困難。本人が満足できるよう働きかけを工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常のなかで、家事や菜園など、お互いの長所を尊重しあう場面がある。身体の不 い方を労わるなど、個々人のやさしさも見られる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的 な関わりを必要とする利用者や家族には、 関係を断ち切らないつきあいを大切に している。	本人や家族がその時点でより必要としているサービスを提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向 の把握に努めている。困難な場合は、本人 本位に検討している。	日常の関わりをなかで、意向や思いを汲み取り、援助計画に反映できるよう努めて いる。	○	本心からの希望を汲み取る事は難しい。研鑽を重ね、より満足いただけ るよう努めていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている。	家族や関係各所からの情報収集により、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状を総合的に把握するよ うに努めている。	詳しいケース記録、申し送りでの適切な報告などで把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、介護支援専門員の適切な 監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを反 映した介護計画を作成している。	定期的にかンファレンスを開催、意見交換しよりよい援助計画作成の努力をしてい る。	○	職員一人一人が学習し、知識を共有しながら理念の実践を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の日々を細かに観察し、変化が見られたときは援助計画の見直しを行う。家族、医療機関などへの報告相談を行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	朝、夕に申し送りを行い、その日の気付きを共有している。わかりやすい記録を残すことで不在の職員にも伝わるようにしている。それらの集約で援助計画の見直しを行う。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	現時点でより適切なサービスを提供できるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて協力、支援いただいている。	○	利用者の状況によるが、積極的に地域参加を行っていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点で必要性が生じていない。他サービス事業者との話し合いは定期的に行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括センターと協働している。	○	利用者のよりよい生活の為に定期的に話し合い等行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療を活用している。主治医は24時間携帯電話が繋がるよう配慮している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要に応じて専門医に受診している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	主治医の看護師に必要に応じて相談している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中の情報収集をこまめに行い、受け入れ態勢を整えている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	該当者がいないこともあり、未だ取り組んでいない。	○	年齢、疾患に関係なく、平素から家族と話し合っていきたいと考えている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	該当者がいないこともあり、未だ取り組んでいない。	○	年齢、疾患に関係なく、平素から家族と話し合っていきたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住替えによるダメージを防ぐことに努 めている。	必要な情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる ような言葉かけや対応、記録等の個人情報 の取扱いをしていない。	プライバシーの確保には最大限の注意を払っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている。	言い表せない希望を汲み取る努力をしている。	○	職員任せになってしまう利用者に対して、希望を推し量る努力を重ねてい く。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、その 日をどのように過ごしたいか、希望にそっ て支援している。	職員の押し付けにならないよう言葉かけも、相手に委ねる口調にしている。健康管理 も重要であるので、その点が阻害されない範囲で希望に沿うようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで けるように支援し、理容・美容は本人の望む店 に行けるように努めている。	起床時、身だしなみの支援をきちんと行う。理美容は本人の望む店を利用している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員がその人に合わせて、一緒に準備や食 事、片付けをしている。	栄養面の配慮をした上で好みに沿った献立を心掛ける。ゆっくりかみしめ、丸呑みし ないよう言葉かけを配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師と十分相談の上で嗜好品を楽しんでいる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を活用し、本人のタイミングで誘導するよう配慮している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯を自由にする事は現時点では難しい。寝る前がいい、少し遅い時間がいい、朝一番でなきゃいやだという、希望を少しずつ受け入れているところである。	○	本来であれば、24時間いつでも入浴できる、という形が理想だ。少しずつでも理想に近づけたいと考えている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	基本的なスケジュールは決めているが、大体は自由に過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や庭弄りなど、出来る限り支援しているが全員が満足できる域にまでは達していない。	○	全員が違う趣味や夢を持っているため、実現は難しい。希望通りでなくとも、それに近いもので提供できるよう努力を続けていく。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	スーパーや喫茶店など、家族や本人が安心できる範囲での買い物や娯楽を楽しんでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やテラスでのガーデニングなど、出来るだけその日のうちに希望に添えるよう配慮している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出の計画をたてるだけで満足、という方もおり、対応は一人一人異なる。少人数で、車で道の駅や遠出を行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやり取りの支援をしている。個別の支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特に定めておらず、常識の範囲内としている。居心地良く過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯の意味で夜間は施錠しているが、日中は開放。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>安否確認の重要性を本人家族に理解してもらい実践している。その際、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>その物品が本人にとって大切なものか否かを考慮、暮らしに影響が無いかどうかで判断した上で危険を取り除いている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>援助計画作成時、リスクについても考慮し、それらを視野に入れ防災についての知識を学んでいる。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>マニュアルを作成、職員が手に取りやすいところに保管。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>マニュアルを作成、職員が手に取りやすい位置に保管。必要に応じてシミュレーションしている。</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>援助計画作成時、説明の際、リスクについても説明している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ミーティング、発見時、気付いた時等、フロアの職員に周知を図り、対応を検討している。時間の足りないときは業務終了後や連絡ノートなどを利用し、役立てている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬表を作り、職員が手に取りやすいところに置いている。必要があれば辞典で調べ、周知徹底を図っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操や散歩、といった軽い運動、繊維のある食事など配慮している。便秘の利用者には、ヨーグルトや牛乳など、医師の助言に基づいた工夫を行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	訪問歯科の定期健診を利用している。必要に応じて、受診行っている。ケースにより毎食後が困難な場合も、夕食後に口腔ケアを徹底して行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	INOUT表作成し、数値のチェック行っている。体調に応じ、水分と、必要に応じて栄養補助飲料を併用している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成、職員が手に取りやすい位置に保管。必要に応じて消毒している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、必要に応じて漂白、消毒行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に植木、見やすい看板など、しつらえは親しみやすいよう配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ブラインド、カーテン使用の工夫、掲示板に季節のものを飾るなど配慮している。汚染した場合はすぐ清掃し、不快さをなくす努力をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやマッサージチェアなどを配置、リラックスできる空間の提供を図っている。限られたスペースである為、思い思いに過ごすことには制限が生じている。	○	家具の配置を工夫し、プライベートを尊重した空間を作りたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ、利用者の以前住んでいた環境に近いものになるよう努力している。茶碗や箸は、使い慣れたものが破損した後は職員と選んだものを使用するなど愛着がわくよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行っている。暖房や扇風機を適度に使用し、温度差が大きくなるよう配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	居室やトイレの手すりは必要に応じて設置。浴室の浴槽に手すりを設置し、自力で移動をある程度行える配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	目めくりの設置、掲示物は最小限にしている。見やすい時計など、利用者が情報を得やすい工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	家庭菜園や、花の植木鉢など、実際に世話が出来る環境を整えている。野菜の出来を楽しみにしている利用者が水遣りをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ● 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ● 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ●少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ●職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ●家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

住宅地なため、土地に限りがありますが、家庭菜園をつくっています。IADLにより参加不参加様々ですが、収穫期には皆さん楽しみにされています。居室はプライバシー保護に力を入れています。